

昔の遊びについて

八千種小学校四年 岩 城 旭 飛



◆調べたきっかけ

ぼくは、テレビを見たりゲームをしたり、ときどき外でボールやバドミントンをして遊んでいます。昔の人はどんな遊びをしていたか気になったので調べました。

◆調べた方法

身近な人にインタビューを行う。

八〇代・・・一名
六〇代・・・二名
五〇代・・・一名
四〇代・・・一名
三〇代・・・二名

計七名

◆インタビューの内容

①家の外と家の中、どちらで遊ぶことが多かったですか？

家の外・・・七名
家の中・・・〇名

②遊ぶとき一人、数名または大人数どちらが多かったですか？

一人・・・〇名
数名、または大人数・・・七名

③遊ぶ約束はいつどこでしていましたか？（何こでも答えていい）

学校・・・七名
直接家に行く・・・四名
電話・・・二名

④何をして遊んでいましたか？

〇 八〇代

なわとび（わらのなわ）、お手玉（布をぬってあずきを入れる）、かくれんぼ、ブランコ（木になわなどでしばってブランコを作る）

〇 六〇代

パッチン、ビー玉、けんぱ、かくれんぼ、ソフトボール、プラモデル、木登り、こつくりさん、花いちもんめ、ドッジボール、きせかえ人形、なわとび（わらのなわとプラスチックせいもの）、お手玉

〇 五〇代

竹とんぼ、竹の水鉄ぼう、竹馬

あそび	パッチン	ビー玉	花いちもんめ
絵			
遊び方	自分のパッチンを地面にいきおいよくたたきつけて、相手のふだをひっくり返して自分のものにする。	おはじきのように当てたら取ることができる。	二つのチームに分かれて、花いちもんめの歌を歌う。かくチーム1人ずつジャンケンする。負けた人は勝ったチームの仲間になる。
あそび	ローラーブレード	たかおに	竹の水鉄ぼう
絵			
遊び方	くつにローラーがついている。それをはいてすべる。	地面より高いところにいると、おににタッチされないというルール。	竹の水鉄ぼうを作る。竹の水鉄ぼうで遊ぶ時はうちわの的やペットボトルを倒すなどして遊ぶ。

竹のそり、（家の近くに竹がいっぱいはえていた。竹でたくさんのもので作って遊んでいた。）

〇 三〇代

野球、おにごっこ、プラモデル、キックベース、ローラーブレード、けいどろ、ファミコン、ゲームボーイ、山たんけん、リカちゃん人形、どろ遊び、たかおに

◆分かったこと

・数名または大人数で遊ぶことが多く、遊ぶ約束は学校で相談したり直接話をしたりしていた。

・昔の人は自分で遊び道具を作った。

遊んでいた。

・たくさん遊びについて知ることができた。

◆まとめ

身近な人にインタビューを行い昔の遊びを教えてもらうことで、昔の生活の様子についても知ることができた。遊び道具を作ることも多く、特にブランコを作ったことにはおどろいた。ぼくはゲームで遊ぶことが多い。でも遊び道具を作ることも楽しそうなので、身近な人に教えてもらいながら遊び道具を作りたいと思った。

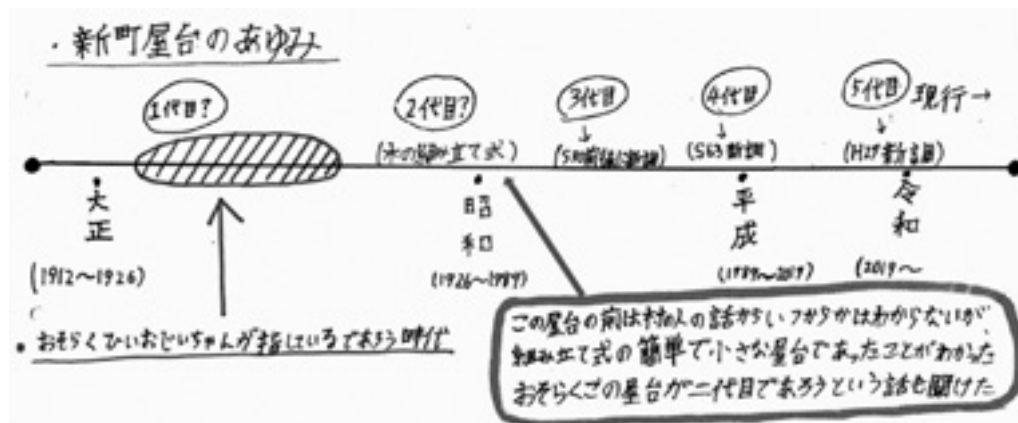
新町屋台の歴史と昔の福崎の川の東西の地域交流について

福崎小学校六年 志 水 栄



◆調べた動機

きっかけはささいなことからです。ぼくは新町の屋台はずっとみこしだと思っていました。でも、お父さんがひいおじいちゃんから「昔、新町の屋台はふとんやったんや」と聞いたことがあるそうです。それを聞いてとてもびっくりしたのと、それが本当なのか知りたいと思いました。調べ進めっていると鈴の森神社（辻川）の上棟式になぜか新町の屋台が川の西側から山崎と共に招待されていたことが分かったり、交通の十字路・福崎と共にある市川の水運に関連する歴史が出てきたりと興味深かったのでこのテーマを選びました。



◆新町の八十〜九十代の人にも聞いてみました。

・田原地区に花あつめに行ったこともあった。

・私が小さいころは木の枠だけのカントナな屋台だったような…

・祭りは川の東の方が屋台が大きかったので熊野神社まで見に行っていた。

・戦前？戦後は屋台が出なかった時期もあったみたい。

・（ひいおじいちゃん大正三年生まれ1914〜2007）新町も昔は布団屋台だった。

色々知ることができましたが、布団屋台についてはわからず…

当時のことを調べていくにつれて、大正時代に新町屋台が鈴の森神社の上棟式に山崎とともに招待されたことがわかり、その資料を調べたら何か手がかりがあるかもしれないと思いました。

◆鈴の森神社 上棟式

★大正九年（1920）十月十五日〜十九日までの五日間

★招待村 亀坪、加治谷、大門、北野、田尻、西光寺、中島、長目、八反田、吉田、八幡、福崎新、山崎の十三ヶ村

★各村共練物（福興などを中心と

した祭礼行列。またその行列の山車、屋台、山鉾などのこと）造込（造り物を奉納すること）をなす。

★練物は北野、長目、大門は屋台を買い求め、吉田は新調、中嶋の如きは、練物、当日朝買い入れ他は自村にて作りし物。造り物（伝説や歴史物語、芝居を題材にした、総社の三ツ山祭では残る）の如きは各村共競争的にして実に見事なる物斗なり。

◆十五日

★宮入順番は抽選の結果

①吉田②亀坪③八反田④加治谷⑤田尻⑥長目⑦山崎⑧八幡⑨北野⑩大門⑪中嶋⑫新町⑬西光寺

※井ノ口、辻川の順序に役場前を起点とし県道を北へ順次午前十一時集合の上練込をなす。※鈴の森神社の氏子

◆十七日

氏神例祭に付き十一時各小屋を出て練込をなす。新町・山崎は自村郷社（二の宮神社）へ練込に付き一時帰り翌十八日に来ることとす。当時の神崎橋は重量制限があつたためか屋台は、吉田の瀬をかついで渡つたそう。

「民俗学のふるさと辻川」より抜粋（伊藤源五氏 伝聞）。

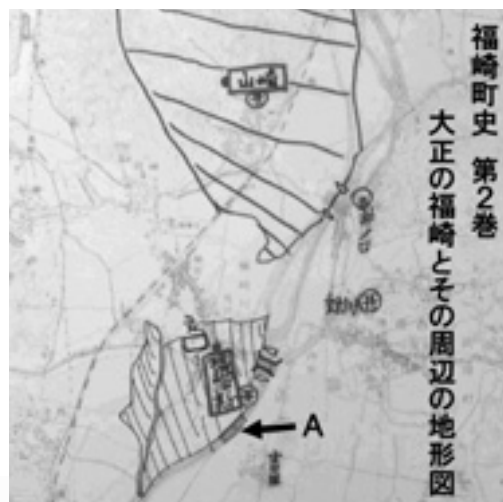


▲旧田原村役場を起点に北へ並ぶ屋台（伊藤源五氏蔵）

・上棟式の宮入りの写真に新町屋台が写っているか宮入りの順番を見ながら、「福崎町史四巻」、「民俗学のふるさと辻川」、「西光寺屋台の歩み」福崎町教育会資料」を参考に各屋台を予想した結果（確かではありません。）残念ながら新町の屋台はこの写真には写っていないように思いました。

結果として新町屋台は布団屋台であつたかということは今回わかりませんでした。しかし、ここで「なぜ上棟式に川の西から山崎と新町が招待されたのか不思議に思い少し調べてみました。

村の位置関係としてどちらも川沿いにある。



★右図のAの説明

上棟式の時、屋台が渡ったとされる吉田の浅瀬。神崎橋は重量オーバーであつたため新町屋台は通行できずに担いで渡ったとされる。

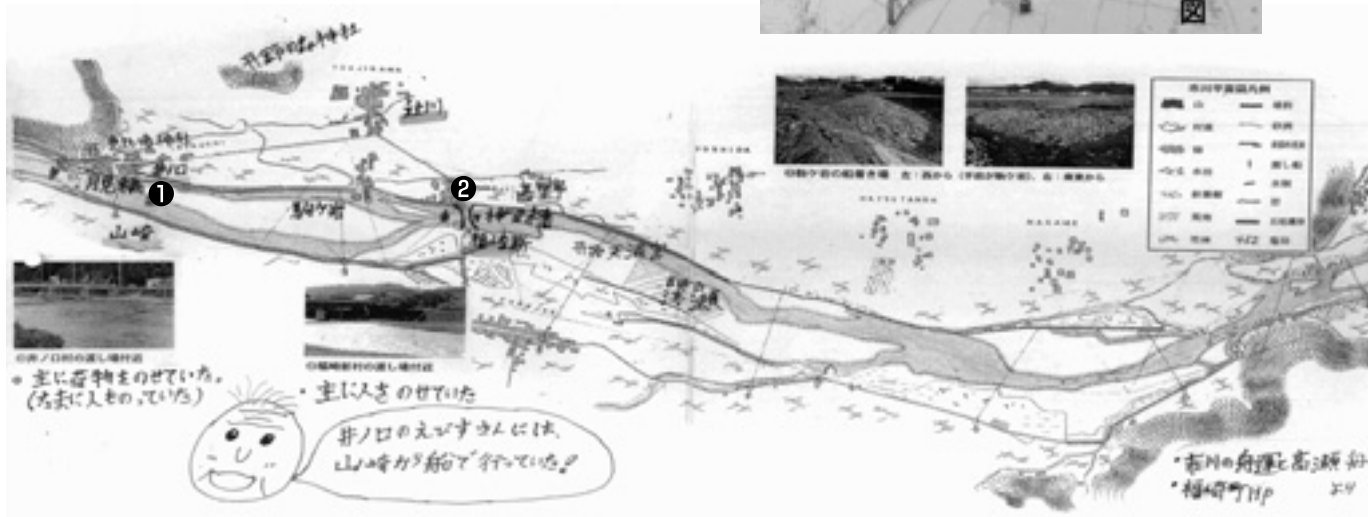
◆予想

古くから両村（山崎・新町）と東側（田原）は船による行き来があつた。

おそらく渡し船（高瀬舟）による物資、人の往来による付き合いがあつたから、招待されたのではなからうかと思ひました。

◆舟運と市川の渡し船

寛永三年（1626）～明治初期（1868）まで物資輸送として高



瀬舟や大きな役割を担う。

①月見橋（吊り橋）S22（1947）架橋後もしばらく航行

②神崎橋文政期（1818～1830）横渡し大正時代（1912～1926）に木橋昭和6年（1931）に鉄の橋になり船は役目を終える

◆感想

最初は単純な疑問からはじめた自由研究でしたが、調べるにつれ自分たちが住む村はもちろんのこと同じ福崎町でも普段あまり知ることのない東側田原地区のことも学ぶことができました。限られた時間だったので、一番知リたかったことにはたどり着けなかったけど、まだまだ知りたいし色々教えて欲しいと思ひました。そして、ぼくもひいおじいちゃんや教えてくれた人たちのように子供や孫の世代に知っていることを伝えていけたらと思ひます。



地域の地蔵について

福岡東中学校二年 井 藤 千 都



◎動機

父方の祖父の家の横には地蔵堂があります。祖父はよくお酒やおかしをまつています。お地蔵さんは幼いころから身近な存在です。毎月二十四日になると「お地蔵さんの日」といって、おじいちゃんがお経を唱えていたり、おまいりにこられたりしています。

道ばたに、お地蔵さんを見かけることが多くあります。なんとなく手を合わせることもあります。お地蔵さんの意味に目を向けたことはありません。この機会に地域のお地蔵さんについて、調べてみようと思いました。

◎地蔵様とは？

お地蔵様を正しくは地蔵菩薩といえます。地蔵菩薩は古代インドで生

まれ、サンスクリット語では「クシテイ・ガルバ」という名前です。「クシテイ」には「大地」、「ガルバ」には「胎内・子宮」という意味がそれぞれあります。その名が示す通り、命を育む力を持つ大地のように大きな慈悲の心で苦悩する人々を包み込み、救ってくれる存在と信じられてきました。道祖神としてのお地蔵様や水子供養のためのお地蔵様などもおられます。

◎地蔵盆とは？

祖父の家と同じで二十四日です。ちようちんをかざったり。おかしをそなえたりすることは同じだということが分かりました。地域の地蔵盆には、私は参加したことがありません。しかし、母は幼いころ、参加したことがあるようで話を聞いてみました。

・母の話によると・・・

私のひいばあやひいじいじが世話人になってお祀りをしていたそうです。

当日の昼頃になると、世話人の人

たちが吉田のおばあちゃんの家を集まって、にぎやかに赤飯、豆ごはんのおにぎりを俵型ににぎり、パックにつめていたそうです。また、袋にいろいろなおかしやジュースをつめておさがりを用意したそうです。たくさんさんの量をつくるので、昼頃から集まっても夕方ぎりぎりまでかかっていたそうです。午後六時頃から法要が始まり、終わると来た人に配っていたそうです。昔はたくさんの方がこられていたそうです。

◎吉田の地蔵盆の今

母が言っていた地蔵盆をしていた場所は安徳天皇にゆかりがあるとされている桶川の泉です。吉田地区に属しています。福岡市の吉田地区を紹介しているホームページにも書いてあります。



浄水山、桶川と書いてあります。昔は右から文字を読んでいたそうです。



信仰を支える人たちが寄付をしあってお堂を建てました。私のひいじいちゃんの名前も見つけました。



トタンの蓋を開けると、とても浅い井戸でした。水はほとんどなかったが、母が小さい頃は割とあって、近くに置いてあった柄杓で水を汲んで飲んだりしていたそうです。



○安徳天皇とは

桶川の水で眼病を治したと言われる安徳天皇とはどういった人なんだっただろう。安徳天皇は平安末期の一七七八年二月二日に生まれました。名前は「言仁（ときひと）」です。亡くなったのは一一八五年四月二五日、わずか六歳四ヶ月、数え年で八歳の短い人生でした。父は高倉天皇、母は権力者平清盛の娘である平徳子でした。天皇と娘が結婚したので、子どもが次の天皇になれば



安徳天皇 (Wikipedia)

天皇の祖父として政治に力を持つことができるので、清盛は一歳（数え年三歳）の言仁を天皇に強引に即位させ、政治の道具として利用されました。清盛の死後、源平合戦となりました。壇ノ浦の海戦で源氏に追い詰められ、安徳天皇は祖母（清盛の妻）、官女たちと海に入水し溺死します。とても可哀想な天皇だと思いました。

有名な平清盛の孫がここ福崎にゆかりがあるなんて驚きました。桶川の水の力は本当なのかは謎だけど。

「大変だけど残そうとする動きはある」それが吉田の地蔵盆の今である。

ひいじいちゃんやひいばあちゃんの時代の人々が亡くなったり、年を老いたりして世話人（有志）がいなくなり、母の話では、十五年ぐらい前にはひいばあちゃんがお祀りしていたけれど、「もうできひんわ」と言っていたのが記憶にあるそうです。だ



管理している人がいらっしやるようで、綺麗に整頓されていました。

から、地蔵盆らしい地蔵盆がなくなっただけで平成二十年ぐらいかなと推測できます。一度なくなっただけのもはもうもどってこないと思います。信仰心が低下していると思うからです。でも、お堂の中はとても綺麗にしているのです。世話人がいることを感じました。前の吉田の区長だったおじいちゃんに聞くと、老人会の人や当番の人が管理しているそうです。

ここは安徳寺さんの管理されているものですが、安徳寺さんは檀家を持っていないので、吉田区が管理しているそうです。

○田原地区の地蔵盆は今・・・

平成十七年に発行された「ふくさきのまつりごと」の中に地蔵盆をしている村、していない村がまとめてありました。ここには吉田区は地蔵盆はあると記載されていますが、母の話から考えると、この数年後にはなくなっただけでなくなっています。他の地域の地蔵盆が消えていないか調べることにしました。今回は田原地区の地蔵盆の今を調査してまとめたいと思います。

吉田区の無形民俗文化財

信仰の場	
安徳寺	江戸時代開創の曹洞宗の寺院。正応4年(1291)の「田原荘実検注進状」にも同名の寺院名が見られ、寺名は引き継ぐが、中世からはかなりの変容があったと思われる
桶川の水	深さ1.5mほどの井戸で、水が底から泉のように湧き出て、旱魃の時にも枯れることがないとされ、長寿の水、極楽の水、万病に効く水で、臨終にこの水を飲むと極楽に行けるとも言われた。安徳天皇が幼少の頃、この水で眼病を治したという伝説もある。明治42年(1909)に井戸をさらったところ、観世音立像が発見され、安徳寺で祀られている。
年中行事	
地蔵盆	8月下旬に桶川の泉で行われていた。
施餓鬼	安徳寺で行われる。かつては四萬六千と別の日に行われていたが、近年8月9日にまとめて行われるようになった。
四萬六千	安徳寺で行われる。かつては施餓鬼供養と別の日に行われていたが、近年8月9日にまとめて行われるようになった。

※福崎町文化財保存活用地域計画 資料編より

調査結果 ○現在行われている △以前行われていた /そもそもない

○	○	○	○	○	△	/	/	○	○	○	/	/	H17 有無
亀坪	加治谷	大門	田尻	辻川	北野	井ノ口	西野	吉田	八反田	西光寺	中島	長目	村
○	○	○	○	○	△	/	/	△	○	○	/	/	R6 有無
8/23	8/23	8/23	8月	8/23	8/23	—	—	8月下旬	8/24	8/23	—	—	日
日光寺山の 入り口付近	・ 悟真院 ・ 公民館	公民館地蔵尊前	円乗寺	50mぐらい行っ たところ	神しゃく寺 下の六地蔵	—	—	桶川の泉	八反田公民館	・ ひめが池 ・ さくら池	—	—	場 所
⑨	⑦	⑥	⑧	⑤	④			③	②	①	⑩		
子どもが少なくなったからおかしはなくなった。コロナ禍から生ものはダメ。赤はんおむすびや手づく りのならづけをわたしていたが、今はない。供物を分ける。	悟真院がおとし火事でもえてなくなり。神しゃく寺でざぜんをする。コロナ後、悟真院でざぜんをして から公民館でおまいりをしておやつをもらう。	昔：区長さんがこどものころは赤はんなどのおにぎりをだしていた。御詠歌のあいだ、子どもたちはドロタ ン（ケイドロ）をしてあそんでいた。ばらばらのおかしをくばっていた。今：おそなえ。有志の人が少なくなってきたが、村の人が当番できるようにになった。老人クラブがおかしを用意す る。おまいりする人が少なくなってきた。	電話が繋がらなかった。	世話人の人がいて、その方が中心になってする。お経のあとにおかしをくばる。辻川発刊の副読本に由来が のっている。	地蔵盆の日に花をかざったりしておまつりしている。今は隣保の人が仕事として行っている。昔は年配の人 （有志）にお飾りをしてもらっていた。地蔵盆自体はなくなった。	えべっさんはあるけど、地蔵盆はない。	地蔵盆は昔からしていない。	その日の朝に村の放送でおしらせをしていた。四萬六千。お経。赤はんと豆ごはんのおにぎり。おかしをく ばる。	盆踊りをする。やきそばやかき氷などのえん日のようなおもい。老人会やふじん会がまるいおにぎりを 作ったりする。じゅずまわしをしたり子どもはおやつをもらったりする。コロナの時はおまいりのみ。コロ ナ後にふっかつ	2ヶ所ある（さくら池、ひめが池のところ）。隣保の当番（世話人）がお供えを持ちよって法要し分けたり 配ったりしている。	地蔵堂はあるが地蔵盆はない。地蔵盆の日に盆おどりがある。	地蔵盆はない（地蔵はある）。お盆に消ぼう団を中心としている盆おどりをしている。四萬六千はしてい る。	備考（どのように。聞いたこと）
河嶋さん	柳田さん	三輪さん	—	田崎さん	埴岡さん	藤川さん	藤本さん	難波さん	多田さん	竹本さん	牛尾さん	後藤さん	協力者

○調査方法

令和四年度の区長名簿を参考に区
長さんに電話をし、地蔵盆の有無や

場所、どのように行っているかを聞
いてまとめました。
※四萬六千とは…四万六千日参拝

したのと同じ功德があるという意味
もありそこから来ているのか？
(kotobank.jp 出典)

○調査から見てきたこと
小学三年生ぐらいまで豊富に住ん
でいこともあり、田原地区の行事に



西光寺区 ①

〈田原地区〉

参加しだしたのはつい最近です。地藏は見かけるけど、気にとめたこともあまりありませんでした。

コロナ禍もあり、少子化、高齢化もあり、地藏盆の規模が縮小しているところも多くあります。神への信仰心が薄らいでいることもあり、参加者が減っていたり、世話が大幅で面倒くさいと感じる人が多くなってきたりしているのではないかと思う。

また、外から福岡へ来た人は行事自体知らない人も多く、伸び悩んでいるのかもしれない。

○町内の地藏盆の様子と位置情報

西光寺地区以外は古い写真ばかりなので、少し現在とちがうところがあると思います。しかし、盆おどりをする位置や地藏盆の場所が変わっていません。機会があれば足を運びたいところです。



中島区 地藏堂 ⑩

町内の地藏祭

地区名	実施の有無	備考	地区名	実施の有無	備考	地区名	実施の有無	備考
長目			亀坪	●		山崎	●	
中島			南大貫			駅前		
上中島	●		東大貫	●		福田		
西光寺	●	地藏盆法要				田口	●	
八反田	●		西大貫	●	愛宕祭 (オトコソシ)	板坂	●	
吉田	●				虫送り・豊年祈る儀	桜	●	
西野			余田	●		長野	△	
井ノ口			小倉	●		神谷	●	地藏盆
北野	△		庄	●		西谷	●	
辻川	●		鍛冶屋	●		西治	●	
田尻	●		新町			高橋	●	
大門	●	地藏盆	馬田	●				
加治谷	●	地藏盆						

※平成17年福岡県立神埼郡歴史民俗資料館発行

「ふくさきのまつりごと」より抜粋

※ ●は現在行われている行事
△は以前行われていた行事

地藏盆 大門区 ⑥



地藏盆 北野区 ④



地藏盆 田尻区 ⑧



掘上地藏 高橋区 ⑪



地藏盆 神谷区



地藏盆 馬田区

〈福岡地区〉

※①以外の写真は「ふくさきのまつりごと」より抜粋

○最後に

町内には思った以上に多くお地藏さんがあった。神社や寺よりも多いのは一般の人がよりよい生活や心を安定させたりするために、すぐに手をあわせて願うことができ、身近な存在だったからであると思います。現在では見ようと思つて見ないとなかなか見つけにくかったりすると

ころもありますが、ふと見つけると見守つてくださっていると思つたり、ありがたい気持ちになったりします。この気持ちが信仰の一つの形のように思います。

うすらいでいく信仰心のように思いますが、社会の事情に合わせながら守つていつているおまつりや、お堂の世話はつづいています。なくな

りきらないということには、現代の人の心の中に文化が根づいているからだと思います。

今回、電話で聞き取りした時でもいいねいに昔と今の違いを教えてくださいました。昔のことは記録を見たり、人に聞いたりすることであり、人に聞いたりすることであり、私は分かりません。なので、こうやって教えてもらえるのはとてもありがたいです。

今、私が見たり聞いたたりしていることも二十年、三十年、五十年とたつていくと、変化していつていくだろうから、その時の若い人からしたらびっくりすることがあるかもしれません。

伝えていくことはとても意味があるものなんだなと思います。

おそらくこれから地藏盆もへつていくと思いますが、あったことをなしにするのではなく、のこしていきたいと思ひました。調べた祭り（地藏盆）も知らなかったけど、楽しそうだったので行つてみたいと思ひました。

町内地蔵盆の位置情報



柳田國男ふるさと賞

福岡町が生誕の柳田國男先生は生前、「日本人とは何か」という問いの答えを求め、日本列島各地に赴き、その地の民間伝承等を調査、研究され、日本民俗学の確立に貢献されました。

その先生の功績を称え、町では小中学生に、より深く民俗学を学んでもらおうと平成25年度から「福岡町柳田國男ふるさと賞」を創設しました。

このふるさと賞は、夏期休暇などを利用し、自ら、郷土の歴史やそこに伝わる伝説・習俗などを調査、研究しまとめられた作品の中から優れたものに贈られます。

今までの作品をみますと、今、調べて残しておかないといずれ忘れられてしまうだろうと思われる貴重な作品がたくさんあるのに驚かされます。

第2の柳田國男が誕生することを願い、郷土に愛着と誇りを持てる子どもに育つてほしいと創設した賞ですが、その副産物として、多くの作品が町の貴重な資料になっています。

このふるさと賞に参加いただいた皆さんに感謝を申し上げますとともに、引き続き柳田國男ふるさと賞への応募をお待ちしております。

『福崎町埋蔵文化財マップ』を作成しました!!

このたび、社会教育課では埋蔵文化財をひろく発信するため文化庁の補助金を活用し「福崎町埋蔵文化財マップ」を作成しました。

埋蔵文化財は地下に眠っている文化財でふだんは目にすることはありませんが、わたしたちの暮らす地域の歴史を知るうえでたいせつなものです。ぜひ、マップをご覧いただき、どんな時代の遺跡が身の回りにあるのか確認してみてください。

また、4つの文化財「おすすめ探訪コース」も掲載しています。マップを片手に歩きながら地域の文化財を再発見してみてください。

なお、この「福崎町埋蔵文化財マップ」は、社会教育課や歴史民俗資料館などの施設に設置しているほか、町のホームページでも公開しています。ぜひ、ご覧ください。



「埋蔵文化財マップ」は折りたたんだ状態でA4サイズ。持ち運びに便利だよ。ぜひ、手に入れてくれ!

問い合わせ先：社会教育課
☎22-0560 (257)



おすすめ探訪コース面



埋蔵文化財マップ面

文化協会からのお知らせ

福崎町文化協会は昭和六十一年に「町の風土や歴史伝統をふまえ、この町固有の文化の継承と発展」を目的として設立されました。他の市町の文化協会の多くが趣味特技を同じくする人たちで結ばれた各種団体の連合体として組織されていますが、当町の文化協会はそれらとは別の性格を有した団体で、活動はおもに柳田國男生誕地であることからその顕彰に努めてまいりました。

当時、柳田國男生家や記念館は財団法人で運営されておりその支援に重点をおき、柳田國男や国文学者で歌人の次兄、井上通泰を顕彰する短歌祭、日本画の大家で末弟の松岡映丘を顕彰する写生大会などの活動を始めました。現在も続けています。平成半ばに公益法人制度改革により、施設も町営となり、顕彰事業も盛んに行われるようになりました。

反面、文化協会は会員の減少、高齢化は避けられず、同様の問題を抱える公民館クラブ連絡協議会と数年前から意見交換会を重ねた結果、令和七年度に統合して福崎町全体の文化の振興を目指す新たな文化協会に生まれ変わる計画をしています。

新しい文化協会では文化に関連する各種団体の連合体として運営しようと考えていますので、長年お世話になった個人の会員制度は無くなります。設立当初からご支援いただいた会員さんも今でも多数おられ本当に感謝を申し上げます。ありがとうございます。

また、新たな文化協会では、各種の団体で構成しますが、公民館クラブだけではなく、町内で活動する多くの伝統や文化に関連する団体に加入いただければとも考えています。

加入いただければ発表会に参加できたり、町の施設の減免制度を利用できる場合もあります。

加入希望があれば文化センターに申込用紙がありますので必要事項を記入し提出いただくこととなります。福崎町の文化の振興を一緒に進めましょう。



公民館クラブ会員募集

町には住民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進を目的とした社会教育法に基づき公民館が2つあります。一つは中央公民館として文化センターがあり、もう一つは分館として八千種研修センターがあります。この両施設や地域の公民館などを利用して住民が生涯を通じて趣味や教養に自主的に取り組み多くの団体が活動されています。

現在、コーラス、吹奏楽、書道、ちぎり絵、パッチワーク、パソコン、短歌、俳句、英会話、中国語教室、将棋、囲碁など、多数のクラブが活動され、定期的に公民館で発表されています。

各クラブは、それぞれで会員を募集しています。知識・技術を習得したい、その成果を地域へ還元したい、活動を通じて友人を増やしたい、等と思われる方はぜひ挑戦してください。

また、新たにクラブを作って活動したい方も要件さえ満たせば、文化センターなどの施設を有利な条件で利用できます。ぜひお問い合わせください。



問い合わせ先 公民館クラブ事務局
(文化センター内)
22-3755

第四十三回

福崎町美術展作品募集

第四十三回福崎町美術展（公募展）の作品を募集します。

皆様方のご応募を心よりお待ちしております。

会期 令和七年

六月十三日（金）～

六月十五日（日）

会場 福崎町エルデホール

主催 福崎町・福崎町教育委員会
部門 日本画・洋画・書・写真・彫塑工芸

応募は一部門一人一点、未発表の作品に限る。

作品搬入

令和七年六月七日（土）
午前九時～午後四時

審査員

日本画	水田 陽子
洋画	三浦 孝宣
書	池永 碧濤
写真	森井 禎紹
彫塑・工芸	山本 喜容子

山桃忌奉賛

第四十回短歌祭作品募集

柳田國男先生と井上通泰先生の命日にちなみ、両先生を偲ぶ会として、毎年八月に柳田國男・松岡家記念館により山桃忌が行われています。

短歌祭は文化協会と福崎短歌会により、山桃忌の当日に行っています。本年の短歌祭は、左記の要領で作品を募集します。

日時 令和七年八月二日（土）

場所 福崎町文化センター

主催 福崎町文化協会・

福崎町短歌会

作品 未発表のもの・一人二首以内

応募料 一首につき五百円

要領 原稿用紙に楷書で縦書き

宛先 福崎町文化センター内

文化協会事務局 宛

締切 令和七年六月三十日（月）

表紙の写真

表紙の絵は、柳田國男・松岡家記念館に所蔵されている松岡映丘作《武者絵》です。柳田國男の遺族より寄贈され、画題は不明ですが、描かれている武具などから室町時代の作品を描いたものと考えられます。また「輝夫画」と書かれていることから、若い頃の作品と考えられます。



編集後記

たくさんの方々のご協力により福崎町文化第四十一号を発刊することができました。寄稿いただいた皆様、校正等にご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。